

第396回:新呼称の登場

1984年10月1日の国慶節、文化大革命が終わって初めての軍事パレードが、首都北京市を東西に横切る長安街で開催され、筆者は現地でこれを視察した。

もう少し正確に云えば、天安門樓閣に招かれた外国人はシハヌーク殿下と、ザンビアのカウンダ大統領、それに国際五輪委のサマランチ会長くらいで、カンボジア人でもザンビア人でもないボクのような外国人は、見物どころか長安街を歩くことも禁止され、仕方ないので北京飯店の部屋でテレビ中継を観ながら、こっそりと窓の外を覗いたものだった。当日のパレード中は室内のカーテンを下ろし、間違ってもバルコニーに出てはならないと、ホテルからきつく云われていたので、あくまで隠れてこっそりの視察だった。

当時中国共産党の総書記は胡耀邦、首相は趙紫陽、国家主席は李先念だったが、当日、軍事パレードを閲兵した主役は軍事委員会主席の鄧小平であった。

閲兵する車両は旧ソ連が要人用に製造した超大型車“ジル”のコピー“紅旗”。鄧小平氏を乗せた紅旗が天安門を出発し、金水橋に差し掛かったタイミングで、北京軍区司令員・秦基偉上將が坐乗する車両が出迎え、秦上將は敬礼しつつ胴間声を張り上げ「軍委主席同志！ 慶祝建国 35 周年の檢閲部隊の配備完了！ 閲兵願います！」と宣言し、そこからパレードが始まった。パレードにおける鄧小平と部隊とのやりとりは、

鄧小平＝「同志们好！」 ⇔ 部隊＝「首長好！」

鄧小平＝「同志们辛苦了」 ⇔ 部隊＝「為人民服務」、この繰り返しであった。

この軍事パレードは、後に 1999 年の江沢民、2009 年の胡錦濤、そして 2015 年の習近平と過去に何度か行われているが、その式次第は全く同じである。

習主席が 15 年 9 月 3 日に主催した軍事パレードは、建国周年行事ではなく、「抗日戦争 70 周年記念」であった。その彼が今年の 6 月 30 日に香港返還 20 周年行事で現地を訪問し、香港特別行政区でも軍事パレードが行われることになった。閲兵するのはもちろん人民解放軍だ。

返還後の 50 年間は香港の制度を変えないという約束だったが、最近中国本土は、香港人の言論や人権に制限を加えようと政治姿勢を強めており、香港人からの反発が強まるなか、中国の権力を誇示する軍事パレードが行われた。「よくやるよ」と思ったジモティーは絶対多数に決まっている。

この軍事パレードで香港駐留の人民解放軍部隊が「首長好！」と叫ぶべきところ、「主席好！」と呼び方を変更したことがいま注目されている。

「首長」とは軍隊の指導者を指し、習近平は軍委の「主席」と国家主席を兼務しているから、「主席」と呼んでも文法上間違いではないが、プロトコルを金科玉条と崇め奉る中国が、意味もなく式次第を変えるわけがない。これは習主席の政治的地位が、くだけたカジュアルな印象のある「首長＝ボス、親分」から、重々しい「主席」へと更に昇格したという見方が有力である。

フランスの国際放送サービス RFI (Radio France Internationale) が、「国営新華社」が 7 月 10 日の記事で、

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

中央軍委主席の習近平氏に“党中央の核心、全党の核心、軍隊の最高統帥”等の称呼を用いており、中国メディアが習主席を“最高統帥”と呼んだのは初めてのことだ」と報じているのを知り、慌てて新華社記事を探してみると「新華社北京 7 月 10 日電題:領航人民軍隊、向着世界一流軍隊邁進・・以習近平同志為核心的中央領導和推進強軍紀實」という物々しい見出しの記事で、たしかに習主席が「作為党中央的核心、全党的核心、人民軍隊最高統帥」と持ち上げているのを確認した。

胡錦濤が統治した 2002 年から 12 年までの 10 年間、彼は集団指導制を徹底し、前任の江沢民が好んだ「核心」という表現を避け、「胡錦濤同志を総書記とする党中央は」という控えめな表現を自らに用いてきた。

これに飽き足らぬ習主席は前任の江沢民や、鄧小平たちが用いた「習近平同志を核心とする党中央」に戻し、自分の権限強化を進めてきたのは、昨今の報道にあるとおりである。

そして、今回習主席は江沢民も用いなかった「最高統帥」という、古くて懐かしい呼称を神棚の中から持ち出してきた。歴代の中央軍委主席のなかで、この呼称を用いたのは毛沢東、華国鋒、鄧小平しかいない。

早いのはなし、習氏は新中国 68 年の歴史の中で江沢民をすっ飛ばし、毛沢東、鄧小平と肩を並べてしまったのだ。いやはや、なんと、えらいものではなからうか。

今秋北京で開かれる 5 年に一度の党大会で、彼は更に強大な権限を入手し、政権 2 期目に突入することになりそうだ。

盟友の王岐山・規検委主任と組んだ腐敗追放キャンペーンでは、前政権時代の公安部門や人民解放軍のトップを追放して江沢民一派に致命的打撃を与え、返す刀で胡錦濤前主席率いる党内の最大集団である共青団グループにも掣肘を加え、現在は財界を制圧し、不正資金の海外流出を止めようとしている。

習一強体制が見えてきた今、彼の権威を維持発展すべく、党中央は 13 億人の民草に対するサブリミナル効果をいろいろ試しており、核心や統帥等の尊敬語が飛び交っているように見える。

ある国が共産主義的色彩を強めることを「赤化」と呼ぶが、いま本土で進んでいるのは「赤化」ではなくて、「北化」ではないかと思うのはボクだけだろうか・・詳しい解釈は割愛するが。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年7月19日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱 UFJ 信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

